

# 中学生・作文 愛媛県砂防ボランティア協会会長賞

## 「土砂災害防止について」

宇和島市立城北中学校 3年 かわもと いずみ 川本 和泉

私は、今まで土砂災害について、また、その防止策について、全然知りませんでした。でも、よく調べてみると土砂災害には3種類あるということを知りました。

一つ目は崖崩れ、二つ目は土石流、三つ目は地滑りです。ニュースで大雨の時に山が崩れたということはよく聞きますが、実際に見たこと、体験したことはありません。日本は平地よりも山の方が多いので、いつ、どの場所で土砂災害が起きてもおかしくないと思います。実際に私が住んでいる地域は、土砂災害特別警戒区域に入っており、過去にも土砂災害にあったことがあるそうです。それについても調べてみたいと思います。

私の家の周りは山だけです。人口はそれほど多いわけではありません。しかし、少子高齢化が進んでいます。したがって、何かの災害があると、高齢の方優先の避難をしなければなりません。

近くの山には砂防ダムがあります。母が高校生の時にできたそうです。できた理由は、大雨の時に土砂崩れがあり、大変なことになったからだそうです。

その日は、家の前の道路にも水が流れてきて、川みたいになったそうです。その時母は、家が崩れないか、水が家の中まで入ってこないか、とても不安だったそうです。そのことがあって、砂防ダムを造ることになったそうです。

ただ、山はそこだけではないので、崩れると大変なことになると思います。その山は傾斜は穏やかですが、中腹にも家が多く建っています。本当に危ないと思います。地域の人も対策を考えているそうです。

しかし、土砂災害の防止について、どんな対策をすればいいのかわかりません。

そこでいろいろと調べてみると、避難所の確認と持ち出し品の準備をしておくことが大切だということがわかりました。避難所は2ヶ所以上知っておくことが大切だそうです。私は、1ヶ所しか知らないの、家族とよく話し合いをしないといけないと思います。持ち出し品もきちんと準備して、いつでも避難できるようにしておかなければならないと思います。そしていざというときには、地域の人たちと助け合わなければならないので、日頃からのコミュニケーションも必要だと思います。いつ自分が人を助ける立場になるか、反対に人に助けられる立場になるのかわかりません。大切なのは、自分の身は自分で守るということ念頭に置き、実践しなければならないということだと思います。

私の住んでいる市には、「鬼ヶ城」という山があります。この間登ってみると、木が倒れたり、石が転がっているところがたくさんありました。斜面が崩れてしまい、道路に土が飛び散っているところもありました。だから、大雨が降ると地盤が緩み、土砂災害を起こし、多くの被害を出す可能性があります。

四国には、今後30年以内に「南海トラフ大地震」が来るといわれています。地震の後、避難するのに、土砂崩れのために避難できないということもあります。そのためにも2ヶ所以上の避難場所を知っておくことは大切であり、自分の命を守ることになります。常に次の行動を考えておくことが大切だと感じました。

東日本大震災が起こったときは、山で地滑りが起きて、短時間にたくさんの人命や大切な物を奪い取っていったそうです。「南海トラフ大地震」も同じくらいの被害が起こると思うと本当に怖いことです。

それ以外にもニュースで、土砂災害があり死亡事故になったということも聞きます。山が多い日本だからこそ、このような問題が起きてしまうのかもしれない。

したがってきちんとした対策が必要だと思いました。きちんとした対策をしていけば、守れるものが一つでも増えるのではないかと思います。

今回、この作文を書くに当たって、たくさんの知識を得ることができました。自分に足りていなかった対策もたくさん見つかりました。災害が起こってから対策を考えるのではなく、災害が起こる前の対策が必要であり、大切だということを感じました。

土砂災害が全国各地で頻繁に起きている今、過去のような災害がいつ起きてもおかしくないという意識をもち、日頃から災害に備えるべきだと痛感しています。